

TOEKO TATSUNO PRINTS COLLECTION IV

辰野登恵子 版画特集IV

6月1日(水) - 7月2日(土)

日本を代表する抽象画家である辰野登恵子。大型の油彩作品で知られるが、そのキャリアのスタートは版画作品であり、多彩な版画作品も数多く制作している。早すぎた逝去(2014)が惜しまれるが、絵画に多大なエネルギーを傾けた辰野の仕事は深い魅力を湛え、今も人々の心を打つ。アートアンリミテッドの4度目の版画展では、89年から2004年までに制作した版画を中心に、リトグラフ、シルクスクリーン銅版画など21点を紹介する。

◎同時期開催

辰野登恵子 -身体的知覚による版表現

4月19日 - 6月19日 BBプラザ美術館(神戸)

辰野の多彩な版表現を、辰野の言葉とともに展示

<https://bbpmuseum.jp/>



Sept-13-2004 2004 silkscreen on paper 101.5×73.5cm ed.38

April-25-91 1991 lithograph on paper 102.0×76.0 cm ed.50

©Tsuyoshi Tatsuno, Rieko Hirade

辰野 登恵子 たつの とえこ

1950年1月13日 - 2014年9月29日

辰野登恵子は1950年、長野県岡谷市に生まれる。

子供のころから色や形に対する意識は高く、トルコ石の不透明感な色に心を揺さぶられ、普通のノートの縦線や、ます目など、日常にあるものの中からインスピレーションを受けていたことをのちに語っている。長野県諏訪二葉高校に進学し、ジャスパー・ジョーンズやアンディ・ウォーホルなど現代美術に傾倒していた美術教師に多大な影響を受ける。

1968年、東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻に入学。在学中、意気投合した写真家の柴田敏雄氏、版画家の鎌谷伸二氏とともに、コスモスファクトリーを結成し、アンディ・ウォーホルやロバート・ラウシェンバーグからの影響に基づき写真製版によるシルクスクリーンを試みる。

1972年、同大学美術学部絵画科油画専攻を卒業、1974年、同大学大学院修士課程を修了。

1984年、東京国立近代美術館の「現代美術への視点 メタファーとシンボル」展に出品し、同展は国立市国際美術館にも巡回。1989年、ベルギー・ゲント市立現代美術館で開催された「ユーロパリア'89 ジャパン現代美術展」に出品。1994年、横浜美術館の「戦後日本の前衛美術」展に出品し、同展は米国ニューヨークのグッゲンハイム美術館、並びにサンフランシスコ美術館を巡回した。

1995年には東京国立近代美術館にて個展「辰野登恵子 1986—1995」を開催し、翌年には第46回 芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。

2004年、多摩美術大学教授に就任。

2011、2012年、フランス・パリ イデム工房で石版でのリトグラフ制作を行う。

2012年、国立新美術館「与えられた形象 辰野登恵子 柴田敏雄」展を開催。

2013年、第54回毎日芸術賞を受賞。

2014年9月他界。

Toeko Tatsuno Official Page より転載

<https://toekotatsuno.com/biography>

最新の略歴はこちら

<http://www.artunlimited.co.jp/artists/toeko-tatsuno.html#bio>